

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600141	事業の開始年月日	平成20年12月1日
		指定年月日	平成20年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 さがみ湖		
所在地	(〒252-0171) 神奈川県相模原市緑区与瀬719-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
自己評価作成日		工外数	2ユニット
		評価結果 市町村受理日	平成26年2月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりできる力を大切に、共に生活をしています。
出来るだけ長期、グループホームでの生活を維持できるように協力医療機関との連携体制、かかりつけ医の往診、訪問歯科診察療、調剤薬局からの指導、助言等々において医療面の充実を図っています。
また、日々の散歩、地域の行事にも積極的に参加して近隣住民の皆様とのコミュニケーションをとっていただくなど、活気ある生活をしていただいております。
施設にもボランティアの方を招き、歌、絵画教室の時間を設け、楽しんで頂いています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目 - 10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成25年12月6日	評価機関 評価決定日	平成26年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
この事業所は、JR中央線相模湖駅から徒歩7分ほどの、相模湖の近くの景勝に恵まれた地域に位置する。敷地は広く建物の周囲に充分スペースがあり避難路が確保され、菜園を作って野菜を育てたりしている。建物は木造2階建ての2ユニットである。内部は、広い廊下をはさんで居室があり、トイレや浴室など配置が工夫され使用しやすく手すりなども完備されて利用者が安全に生活できる。リビングルームは南向きで窓が広く採光が良く明るい。窓からは相模湖が望まれ、夏の花火大会は居ながらにして見物できる。春には隣の敷地にある桜の大木に見事に花が咲いて利用者の目を楽しませている。「花物語」の名の通り、事業所の各所に「花守」が活けた生花や絵画が配置され、利用者や職員のみならず訪れる人の心を和ませていた。

【理念に基づいたサービス】

7項目から成る事業所の理念は、設立時に皆で考えて話し合っ作成したものである。「利用者独自の生活を重視した人生の継続と自立支援、その人の尊厳を守って可能な限り誰をも受け入れる。スタッフ同士で疑問点を話し合っ解決し、笑顔と明るい態度で仕事を楽しむ」という主旨である。職員は、笑顔で利用者に接するという事に共感し、仲の良い家族のように利用者と和やかに笑顔で言葉を交わしサポートしている。本人のできること、やりたいことの支援も大事に考えている。絵画の好きな利用者には、絵画の趣味を持つオーナーの協力を得て、様々な絵を描いてもらい居室やリビングルームなどに飾っている。食事の際には、できる方にはテーブル拭きや下膳をしてもらい、朝の廊下の床掃除は、職員と利用者が協力して行っている。

【職員の連携と利用者の生活】

設立時から勤務しているベテラン職員は利用者との馴染みの関係があり、穏やかな生活を支えている。若い職員は、パソコンを駆使して賛美歌に似た音楽をダウンロードしクリスマスチャンの方に聞いてもらい、利用者は楽しそうに口ずさんでいる。職員同士の連携も良くスタッフ会議では意見交換を活発に行い、サービスの問題点や疑問点を話し合っ解決策を見いだして実行している。休憩室は2ユニットの職員が共同で使用しており、ユニット同士の情報共有も行っている。今回1階で実施した看取り介護についても、携わった職員の思いや看取りの状況の情報交換ができた。その後ユニット合同のスタッフ会議で話し合っ詳細な情報を共有している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 さがみ湖
ユニット名	1階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目に留まるところに掲示して実践につなげている。	施設長は、理念の中の「笑顔で利用者に接すること」に重点を置いて職員に周知している。職員は、利用者に明るく笑顔で接して興味のあるものや好きなことを楽しんでもらい、利用者の笑顔が返って来ることに喜びを感じて日々の支援を実施している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどスタッフとともにご利用者も参加している。	自治会に加入し施設長は防災訓練や定例会に、利用者は納涼会やどんど焼きなどに参加している。夏休みには、地元の小学生や中学生のボランティアが来訪し、紙芝居、本の朗読、手話付きの歌などを披露した。秋祭り、敬老会、クリスマスには津軽三味線や合唱などのボランティアが来訪している。オーナーによる絵画教室が月1回開かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動を通して地域の方とのふれあいを増やし、ボランティアの方や見学の訪問をオープンにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動の様子を報告し、出席者より意見を伺い、事業所での活動に反映させている。	運営推進会議は2か月ごとに開催している。構成メンバーは自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者代表、施設長、計画作成担当者などである。会議では現状報告や行事予定などを伝え、参加者の意見や提案を受けて話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員、民生員、自治会長の方に運営推進会議のメンバーとして出席してもらい意見交換している。	相模原市高齢者政策課および緑区津久井支所生活支援課には、介護保険制度、市条例や生活保護受給等について報告や相談を行っている。「さがみはら・ふれあいハートポイント事業」の協力事業所となっている。外部評価報告書は緑区に提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいる。現在拘束はしていない。	身体拘束排除を、運営規程や契約書に明記して契約時に説明している。職員は身体拘束の排除について研修を受けて日々の支援で実施している。車いすは移動手段であるとわきまえ、食事の時などではできるだけ椅子に移乗している。居室と玄関は開錠しているが、各ユニットは家族に説明し了承を得て施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は職員全員で注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、この制度を使い生活されているご利用者がいるので、実践的に学び、関係者とも話をさせていただいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアプラン作成時等にご家族に説明を行いご理解いただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、地域の方のご意見を聞き運営に反映させている。	毎月発行し家族に送付する「相模湖の風」の下半分は、ご意見欄として返信用の封筒を同封している。家族の面会時にも意向や要望を聞き取っている。利用者の食事介助に関する家族からの要望を受けて、過度な介助を避けて自力で食べられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催することにより、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	職員は、毎月開かれるスタッフ会議で運営やサービスについて意見や提案を述べている。職員の提案により、服薬事故防止のため薬の管理を2人で行うことや利用者の重度化に伴い食事の時間が長くなるので、個々の身体状況に合わせて食事開始時間を15分程早めることを実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接は事業所内で行い、非常勤職員の給料の引き上げを行っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での個々の研修(OJT)は行われている。また、新人職員に対して新人研修を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所として勉強会を通して他のグループホーム等、交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活できるための関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、ご家族の意見、要望をお聴きしできるだけ多く具現化できるようにより良い関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の様子や状況を十分に把握し、ご本人とご家族と話し合い、必要としている支援を見極める。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が手伝っていただける事を見つけ、一緒に生活をともにできる環境をつくりだしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、日常生活の様子を話し、お互いご利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている場所や昔の話を聴く時間を設けるなど支援に努めている。	友人や親戚からの手紙や年賀状は、読み聞かせて返事は利用者を書いてもらい、ポストに投函している。かつての和歌の先生と、月に一度の文通を楽しみ、便りを部屋に飾っている方もいる。クリスチャンの利用者には、牧師や信者が定期的に面会に来ている。訪れた方は居室に案内してお茶などを提供している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格とご利用者同士の関係の把握をし、支えあえるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の様子、その後の経過をご家族と連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いやりや意向など暮らし方の希望を交えて把握に努めている。	職員は、日々の会話や仕草、表情から利用者の意向や希望を把握するようにし、以前の生活歴や嗜好などからどうしたら喜ばれるか推測し、支援に活かしている。誕生日には、一人ずつプレゼントは何がいいか、食べたいものは何かを聞き取って提供し、お祝いをしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用経過はスタッフ会議の話し合いで把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身状態を把握し一日の過ごし方をスタッフで話し合ったり、申し送りを行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、カンファレンスの場などで意見交換し介護計画を作成している。	介護計画の目標や項目に沿った実施記録をとり、カンファレンスで職員の意見を聞き取ってモニタリングを実施している。介護計画の見直しは、初回は暫定計画を作成し2か月後、通常は3か月もしくは6か月、状況の変化に応じて随時行っている。家族の意見を把握し必要に応じて医師、看護師、薬剤師の助言を受けている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノートによる実践、見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し、暮らしの中に取り入れている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、かかりつけ医と連携を取り入れながら、適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関の往診は月2回、歯科医の往診は週1回である。訪問看護師は毎週来て健康チェックを行っている。薬剤師が毎週来訪して服薬の管理やアドバイスを行っている。かかりつけ医へは家族が対応している。診療結果の情報を聞き取って、症状に変化があるときなど必要に応じて記録している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りで職員同士の情報を共有し、看護師、かかりつけの医師に連絡、相談して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努め、早期退院できるように相談し、退院後の受け入れ体制を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とご希望を十分に話し合い、事業所の医療連携体制をご理解いただき職員一同で考え方、共有して支援に取り組んでいる。	医療連携体制加算の要件である「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。今年度の改善目標であるターミナルケア研修会を実施している。家族の希望に応じて医師を交えて話し合っって体制を整え、事業所1階で初めて今年10月に最期を迎えられた方を看取った。実施後はユニット合同会議で話し合い、職員全体で看取りの情報を共有した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、緊急時には、かかりつけの医師に連絡して指示を仰ぎ、同時に施設長に報告、連絡して対応している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指示を受け、ご利用者、職員で消防、防災避難訓練を行っている。	防災訓練は、年2回消防署立ち会いで全職員が参加し、役割を分担して実施している。夜間想定訓練、消火訓練、通報、誘導訓練などを行っている。施設長は自治会の防災訓練に参加しているが、地域住民の訓練参加はない。災害備蓄は飲料水、食料、備品など職員の分も含め3日分保有している。	自治会や地域の消防団に呼びかけるなどして、防災訓練に地域住民の参加・協力が実現することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りなどを損なわない言葉づかい、言葉かけを心掛けている。	毎年、接遇および高齢者虐待防止の職員研修を行っている。「笑顔で接すること」を大切に、職員は言葉遣いに注意して呼びかけは姓で「さん」づけにしている。排泄の失敗は羞恥心に配慮し、認知症の兆候が激しい場合は職員が協力してカバーしあって対応している。個人情報のある書類は事務所のキャビネットに施錠して保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようにご本人が理解できる言葉かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や自由におしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、片付けなど、協力し合う。誕生会などご本人の好む物を聞き希望に合わせて提供している。	食材は、地元のお店に発注し届けてもらっている。事業所敷地で収穫した季節の野菜を使うこともある。職員は、ユニットごとに当日の材料を見て献立を決めて調理し、出来たての温かいものを提供している。食事は、飲み込みの状態に合わせて細かく刻むなど工夫し、カロリー制限のある方には控えめなカロリーで提供している。職員は介助に重点を置き、検食は当番を決めて利用者の立場で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、状態に応じて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科より、個々に注意点をもらい、それに沿って声かけ、援助をしている。食後の口腔ケアに努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に基づきパターンを把握し、自立に向けトイレでの排泄援助を行っている。	「排泄チェック表」により個々のパターンを把握して、さりげなく声かけをして介助を行っている。失敗したときはすぐトイレに誘導し、プライバシーに配慮して対応している。夜間におむつを利用する場合でも、折を見てトイレに誘導している。退院後おむつを利用していた方も誘導を適切に行って、リハビリパンツ・パッドになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、薬物での対応を行い、予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯を決めているが、ご本人の希望やタイミングを合わせながら、楽しく入浴できるように援助している。	入浴は原則として週に2回である。希望により回数や時間は柔軟に対応している。入浴が好きでない方には、日にちや時間、声がけする職員を変えたり、同性介助にするなど工夫している。その日の体調により、シャワー浴や足浴に変更している。脱衣室を温かくして急激な温度変化をなくしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせ、個人の休息時間の支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段の様子、変化を注意深く観察し、かかりつけの医師と薬剤師が情報交換を密にできるように連絡し、努力している。服薬は二人で立ち合いで行い、ダブルチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を見つけ出し、役割をもった生活をしていただけるよう支援している。嗜好品についても気分転換できるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩、外気浴を行っている。ご家族との外出は積極的に支援している。	天気の良い日はいつでも外気浴や散歩をしている。車いすにも対応している。春には「宮ヶ瀬湖」へ利用者10名、職員4名で出かけた。5月の誕生会にはファミリーレストランにドライブを兼ねて出かけた。富士山見物に「河口湖」、紅葉狩りに「山中湖公園」に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるために、現金は所持していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力のもと行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者にとって不快な刺激は気をつけている。季節ごとの行事の展示物を飾る工夫や花を飾り心地よい生活が送れる工夫をしている。	建物はバリアフリー構造で手すりの配備も適度にされている。玄関、階段、リビングルームには「花守」担当者が活けた季節の花が飾られている。廊下や階段には絵画教室のボランティアであるオーナーの油絵や利用者の作品が飾られている。リビングルームにはクリスマスツリーが飾られ、秋祭りの写真や相模湖花火大会の写真などが飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室は、それぞれが過ごしやすいよう家具のセッティングをしてもらい、共同空間はトラブルが生じないように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が用意された家具を使用し、居心地の良い居室で過ごされている。	居室は、照明器具、空調設備、ベッド、クローゼットが標準設備となっている。利用者は防災カーテンや寝具を初め、使い慣れた調度品やぬいぐるみ、家族の写真など馴染みのものを持ち込み、居心地の良い部屋としている。通常は職員が清掃するが、月1回専門業者に依頼している。居室の表示は名札で行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人でできる事はやっていただけるよう、安全面に配慮している。		

事業所名	花物語 さがみ湖
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目に留まるところに掲示して実践できるよう日々努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地域行事への積極的な参加をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の催し、運営推進会議などを通して理解、支援を仰いでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し意見をいただきサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連携をとり、協力関係を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、注意を払い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用し、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、施設長が十分に説明し理解、納得していただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を聞くよう努め会議等でも意見や要望を表し、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を設け意見交換し反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接は、雇用契約を結ぶ時と必要時に行っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTなどの研修を随時実施、新人職員に対し、新人研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所として勉強会を通して他のグループホーム等、交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントし、ご本人のニーズに耳を傾け安心していただけるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、お話を聴き安心していただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、必要としているものを見極め支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、運動、物作りなど一緒にできるようこころがけている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族にご利用者の日常生活をお伝えしながら、一緒に支えていける関係づくりを築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、日常的に馴染みの場所などお話しできる環境づくりに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや共同作業を通して支え合えるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会時、日常の生活の様子をお伝えしたり、その後の経過をご家族と連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望、意向に沿えるよう心掛け利用者様本位であるよう検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日ごろの会話から把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分なアセスメントと記録を残し、情報を共有することで把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、カンファレンスの場などで意見交換し介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りで情報を共有し、実践して介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中で、楽しみを持って生活できるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診医の診察を受けている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りにてスタッフ同士の情報を共有し、看護師、かかりつけ医師に連絡して支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換に努め、早期退院できるように相談し、退院後の受け入れ体制を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人、ご家族と十分に話し合い、事業所の医療体制をご理解いただき、スタッフ一同で考え方を共有し、支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行っていないが、緊急時には、かかりつけ医師に連絡して指示を仰ぎ、同時に施設長に報告、連絡し対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防署の指導を受け、ご利用者、職員が消防、防災避難訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉かけ対応に心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望、自己決定でできるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切にし、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髪型などご本人の希望に添えるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々できることを見つけ、一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を把握し、栄養、水分確保の支援に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを毎食後行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食材選び、軽い運動を行っているが、かかりつけ医師と協力して予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に合わせ、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、休息していただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師からの指示を仰ぎ、理解し服用の支援を行っている。服薬は二人立ち合いで行い、ダブルチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし、役割、楽しみを持てるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事の参加、外出の機会を作るよう心掛けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない為、所持していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人差はあるが、ご家族の協力のもと行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り付けなどで、工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームで会話を楽しんだり、ソファでくつろいだり好きなように生活できるよう工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れた家具や物を置き、自由にレイアウトすることで、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握することで、できる限り自立した生活が送れるよう工夫している。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語さがみ湖

【目標達成計画】

作成日 26年 2月10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		防災訓練は年2回行っているが地域住民の参加がない	年2回の訓練に地域住民の参加を促し、協力をお願いする。	自治会の回覧板や地域の消防団の協力をお願いする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。